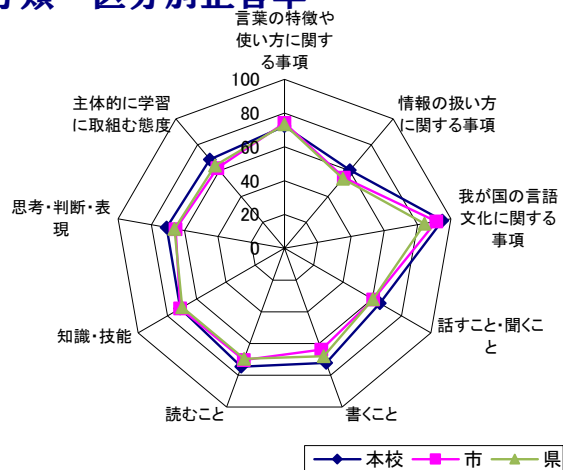


# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.3	74.2	73.3
	情報の扱い方に関する事項	60.3	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	94.9	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	65.1	60.6	60.4
	書くこと	72.1	63.8	68.0
	読むこと	74.6	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.3	71.3	69.9
	思考・判断・表現	70.8	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	68.7	61.9	64.0



## ★指導の工夫と改善

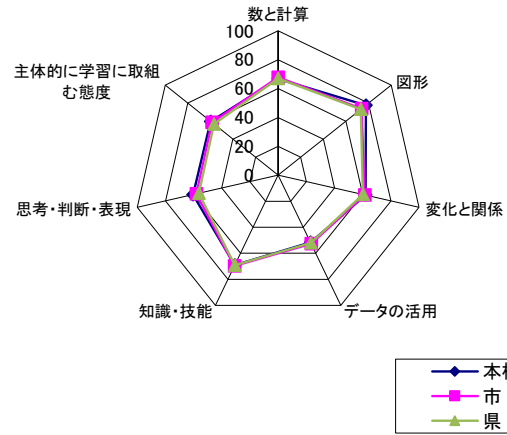
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、72.3%で県と同程度である。</li> <li>○漢字の書きの問題において、「争う」では正答率が62.8%で、県より8.2ポイント高くなっている。</li> <li>●漢字の読みの問題において、「好む」では正答率が83.3%で、県より5.9ポイント低く、書きの問題において「巢」では、正答率が71.8%で、9.3ポイント低くなっている。</li> <li>●連用修飾語の理解の問題では、正答率が37.2%で、県より7.8ポイント低くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・送り仮名に注意が必要な「争う」など、繰り返し習熟を図った漢字について正答率が高かったことから、今後も学習した漢字の反復練習をして定着を図る。その際、同音異義語等も取り入れたり生活の中で漢字に変換する活動を取り入れたりして、知識を活用する喜びを味わえるようにする。</li> <li>・日常生活の具体的な場面を取り上げ、修飾語をより身近なものとして理解・活用していけるようにする。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、60.3%で県より6.5ポイント高い。</li> <li>○情報同士の関係を理解し、段落相互の関係を捉える問題では、正答率が53.8%で、県より12.2ポイント高くなっている。</li> <li>●情報同士の関係を理解して、事例などを挙げて説明する問題では、県より5.1ポイント高くなっているが、正答率は50.0%と低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を中心に段落の構成やその働きについて考える学習に力を入れてきたことが、成果につながったと考えられる。今後も継続して説明文を中心に情報を読み取ったり、比較したりする活動を取り入れていく。また、事例を挙げて説明する活動をさせながら情報を効果的に扱っていくように指導する。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、94.9%で、県より10.7ポイント高い。</li> <li>○ことわざの意味を問う問題では、正答率が94.9%で、県より9.7ポイント高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が進んでことわざなどの言葉を調べる機会を設け、児童同士の学び合いを通して、より多くのことわざや言葉に触れられるようにする。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、65.1%で、県と同程度である。</li> <li>○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、正答率が62.8%で、県より8.6ポイント高くなっている。</li> <li>○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめる問題では、正答率が71.8%で、県より5.9ポイント高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを項立てしたり箇条書きしたりして取ることができている児童の正答率が高いことから、メモの重要性が分かる。今後も、社会の校外学習や総合的な学習でのインタビューなど他教科においても、機会を捉えてメモの取り方を指導していく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、72.1%で、県と同程度である。</li> <li>○アンケート調査の結果から読み取ったことを書く問題は、正答率が78.2%で、県と比較して9.5ポイント高くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「○文字以内で書く」や「○○について書く」というように、指定された形での短作文の練習を行ってきたことで、成果が表れると考えられることから、今後も繰り返し短作文を書く活動を取り入れ、丁寧に添削をしていく。</li> <li>・事実と考えを区別して指定された形で書く練習を積み重ねる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、74.6%で、県と同程度である。</li> <li>○登場人物の気持ちについて、叙述をもとに捉える問題では、正答率が93.6%で、県よりも5.2ポイント高くなっている。</li> <li>●段落の関係を捉えながら読み取る問題では、県より12.2ポイント高くなっているが、正答率は53.8%と低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率が県と比べて全体的に高かった。これは、読書量の確保、説明文の読み取り、朝の学習でプリントを使って習熟を図ってきた結果と考えられる。しかし、正答率としては十分でない。今後も継続して、読書の推奨、丁寧な説明文の読み取り、習熟プリントの活用を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.7	67.8	67.0
	図形	77.7	73.9	73.1
	変化と関係	62.0	61.4	60.2
	データの活用	51.6	52.7	52.1
観点	知識・技能	69.1	69.7	69.2
	思考・判断・表現	60.4	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	59.7	58.5	56.7



## ★指導の工夫と改善

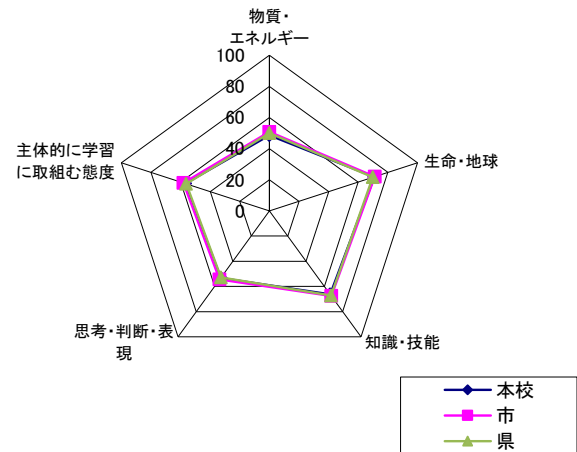
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は66.7%で県や市と同程度である。</li> <li>・文章問題の関係を線分図に表したり、計算の順序を求めたりする活用型の問題では、正答率が70.5%で県や市より6ポイント高いが、四則計算や四捨五入など基礎型の問題では、正答率が68.4%で県や市と同程度である。</li> <li>○昨年度の課題であった「問題場面を図で表す」ことは、改善している。</li> <li>●正しい手順で四則計算をすることに課題が見られる。特に、わり算では、無解答率が10%を超える高い値を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を線分図に書き表したり、その図を基に式を考える力は引き続き高めていけるようにする。</li> <li>・練習問題や個別指導を充実させ、基礎的な四則計算ができるようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は77.7%で県や市と同程度である。</li> <li>○角度の読み取りや基本的な図形の面積を求める基礎型の問題では、正答率が82.3%で県や市と同程度である。</li> <li>○複合図形の面積を求める活用型の問題では、正答率が70.1%で県や市より6ポイント以上高くなっている。</li> <li>●身の回りの物の面積を予想する問題では、正答率が47.4%で、県や市より高くなっている。しかし、過半数の児童が正しい見通しをもてていないことが分かる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスなどの用具や公式を正しく使う力は引き続き高めていけるようにする。</li> <li>・すぐに問題を解くのではなく、答えの見通しをもつ時間や、予想と答えに注目した振り返りを書く時間を確保して、量感覚を高めていくようにする。</li> <li>・物の面積に対して正しい見通しがもてるように、授業で学習問題について見通しを立てたり、身近なものの面積についても同様に予想したりする活動を取り入れていく。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は62.0%で県や市と同程度である。</li> <li>○変わり方の関係を表にする基礎型の問題は、正答率88.5%で県や市と同程度である。</li> <li>●変わり方の関係を式にする問題は、正答率が34.6%で県や市より低くなっている。また無解答率も17.9%と高くなっている。</li> <li>●具体的な生活場面が問題になっている活用型では、正答率が49.3%で、県や市と同程度であるが、過半数の児童が不正解である。無解答率も高く、記述式では20.5%になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の基礎的問題を使って、「表にまとめる」「表から関係を読み取る」「式に表す」という一連の考え方の定着が図れるようにする。</li> <li>・応用問題では場面を細かく区切りながら確認することで、問題場面や条件を正しく読み取れるように指導する。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は51.6%で県や市と同程度である。</li> <li>●二次元表を読み取る基礎型の問題は、正答率44.9%で県や市と同程度である。</li> <li>●グラフから読み取れる事を基に話し合い場面が問題になっている活用型では、正答率が53.8%で、県や市と同程度だが、無解答率が高く、記述式では28.2%になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の基礎的問題を使って、「データから項目ごとに読み取る」「項目を組み合わせる」という一連の考え方の定着が図れるようにする。</li> <li>・考えたことを文章で書くことや意見交流の場を継続して設定し、算数への苦手意識を低くしていきたい。</li> </ul>

# 宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.6	50.8	50.0
	生命・地球	70.8	71.1	69.8
観点	知識・技能	66.3	67.6	67.2
	思考・判断・表現	53.3	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	56.9	58.1	56.2



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は48.6%で県や市と同程度である。</li> <li>○予想から結果を推測する問題では、正答率が70.5%であり、県より12.8ポイント高くなっている。</li> <li>●物の温度による体積変化や回路のつなぎ方の用語を問う基礎型の問題で、それぞれ正答率が43.6%、53.8%で、県より11ポイント、10.8ポイント低くなっている。</li> <li>●具体的な生活場面が問題になっている活用型の問題は正答率が29.5%で、県より、12.8ポイント低くなっている。無回答率が20%を超える高い値を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「物の体積と温度」についての正答率が大幅に低かったため、単元で、実験結果から考察したことを丁寧に教えることで理解を深めさせるとともに、定期的に復習を行い、確実に知識の定着を図る。基礎的な用語を丁寧に教える、知識の定着を図る。</li> <li>・実験を行う前に結果を予想し、伝え合う活動を行うことを今後も継続していく。また、実際に自分の手で実験したり、操作したりする活動を意図的に取り入れる。</li> <li>・実験結果で分かったことを基に、生活と結び付けて考えられるようにする。</li> <li>・知識を体系立てて捉えたり、それはなぜかといった深く考えたりする活動を取り入れる。</li> <li>・理科の時間はもとより、様々な教科で文章を書く活動を積極的に取り入れ、問題の意図を汲んで適切に答える力を付ける。</li> </ul>
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は70.8%で県や市と同程度である。</li> <li>○気温の変化のグラフから天気を判断し、理由を説明する活用型の問題では、正答率が64.1%で県より10.4ポイント高くなっている。</li> <li>●方位磁針の使い方や月の見える方位などの基礎型の問題では、それぞれ正答率が、32.1%、48.7%で、県より6.1ポイント、7.2ポイント低くなっている。</li> <li>●複合グラフから変化の関係を読み取り、説明する活用型の問題では、正答率が67.9%であり、県と比べると8.1ポイント低くなっている。無回答率が7.7%である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験器具の使い方を説明するだけでなく、実際に操作する活動を意図的に取り入れる。</li> <li>・植物の成長については、学習時期が断続的のため毎回復習をするようにし、1年間の変化を正しく理解できるようにする。</li> <li>・月と星については、学校で実際に確認することができないので、写真や動画などを意図的に活用し、正確な知識の定着を図る。</li> <li>・算数の授業だけでなく、理科でもグラフの読み取り方を確認する。</li> </ul>

## 宇都宮市立雀宮中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の復習をしている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は8割を超えており、市の平均と比べて19ポイント高く、自主学習が定着してきた。学校全体で、自主学習のやり方を示したり、保護者に取組の依頼をしたりと、家庭と連携を図りながら取り組んできた成果が表れている。

○「学校のきまりを守っている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は98.8%で、多くの児童が規範意識をもって学校生活を送っていることが分かる。学校で起こる様々な問題について、自分事と捉えて改善策を考える姿が見られる。今後も、児童がきまりを守って安全に楽しく学校生活を送ることができるよう、日々児童を見守り、よさを伸ばす指導を推進したい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」、「人と話すことは楽しい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、どれも9割を超えている。相手を思いやる心が育ち、友達と良好な人間関係を築くことができる。学校全体で、認め、励ます教育や思いやりの心を育成する取り組みをしてきた成果が表れている。

●「本やインターネットなどを活用して、勉強に関するじょうほうを得ている」の質問に肯定的に回答した児童の割合は、約4割と低く、昨年度と同様の結果であった。今年度から一人一台端末が配布され、児童にとって情報機器がより身近なものとなっているので、それを各教科の授業で効果的に活用していくようにしたい。また、情報モラルや情報機器の使い方について学ぶ機会を充実させ、自主学習等においても積極的に活用していけるよう取り組んでいきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に肯定的に回答した児童の割合は66.7%で、市と比べて7ポイント高く、過半数の児童が自分の考えを文章化することを難しいと感じている。国語や道徳の授業だけでなく、各教科においても考えを記述する時間を確保したり、学校行事等のふりかえりを書いたりすることで、自分の考えを文章にして表現する力を伸ばしていきたい。

## 宇都宮市立雀宮中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
読解力向上に向けた指導の工夫	・読解力を付けるための語彙・文法の基礎の定着を図った朝の学習でのプリント学習 ・読書の推進	国語の「読むこと」の領域に関して、領域の正答率は県と同程度である。
作文力の育成	・作文力を付けるための朝の学習や家庭学習における定期的な短作文プリント学習 ・新聞の活用	国語の「書くこと」の領域に関して、領域の正答率は県と同程度である。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の調査結果から、漢字の読み書きの問題や言葉の学習に関する問題で、正答率が県よりも低くなっている。	漢字の読み書きや言葉の特徴、使い方の知識の育成	全校で漢字チャレンジデーに定期的に取り組む、学習した漢字の定着を図る。また、語彙を豊かにするため、同音異義語等も取り入れながら、国語辞典で意味を調べたり、短文作りをしたりする。
国語の調査結果から、情報と情報との関係について理解し、読み取ったことをもとにまとめる問題の正答率が低い。	読み取ったことをもとに考えを書く力の育成	授業の中で、段落や文相互の関係を捉えたり、中心となる語や文を見つけて要約したりする活動を意図的に位置づける。